2026県展　審査結果について

県展実行委員会

1　応募及び入選作品数一覧

部門	応募点数			入選点数		左のうち入賞点数						
	本年度応募点数	2025年比増減数	全体に占める割合(%)	本年度	%	特席	一席	二席	三席	佳作	奨励賞	入賞数
絵画	167	9	41.9%	67	37.3%		1	1	1	5	1	9
彫刻・立体	18	△ 3	4.5%	7	42.9%	1	1	1	1	1	1	6
工芸	28	△ 5	7.0%	11	36.4%		1	1	1	2	1	6
書	45	△ 10	11.3%	18	38.2%		1	1	1	3	1	7
写真	114	△ 18	28.6%	46	37.1%		1	1	1	5		8
デザイン	27	△ 2	6.8%	11	37.9%		1	1	1	3	1	7
計	399	△ 29	100.0%	160	37.6%	1	6	6	6	19	5	43

特席	県展大賞	副賞50万円
一席	部門大賞(知事賞)	副賞10万円
二席	兵庫県立美術館賞	副賞7万円
三席	神戸新聞社賞	副賞記念品
佳作		
奨励賞	(公財)伊藤文化財団賞	副賞5万円及び記念品
特別賞	県民賞(来場者の投票による)	副賞記念品

※特席(県展大賞)及び特別賞(県民賞)は全部門を通じて各1名、奨励賞((公財)伊藤文化財団賞)は各部門1名
※県展大賞の副賞50万円については、部門大賞の10万円を含む

2　年齢別応募者数一覧

部門	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
絵画	8	15	4	13	10	117	167
彫刻・立体	1	1		3	3	10	18
工芸		4	2	3	6	13	28
書	2	7	5	2	9	20	45
写真		1	1	4	10	98	114
デザイン	4	2	3	2	2	14	27
計	15	30	15	27	40	272	399
(%)	3.8%	7.5%	3.8%	6.8%	10.0%	68.2%	
2025年比	83.3%	125.0%	71.4%	128.6%	88.9%	91.0%	93.2%

3　地域別応募者数一覧

部門	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	他府県	計
絵画	60	28	13	14	15	25	3	2	2	2	3	167
彫刻・立体	5	4	0	2	1	2	0	0	1	2	1	18
工芸	6	5	3	4	1	3	1	0	0	2	3	28
書	20	4	3	2	1	6	5	0	0	2	2	45
写真	53	19	12	8	13	2	3	1	1	0	2	114
デザイン	11	4	1	1	0	4	1	2	1	0	2	27
計	155	64	32	31	31	42	13	5	5	8	13	399
(%)	38.8%	16.0%	8.0%	7.8%	7.8%	10.5%	3.3%	1.3%	1.3%	2.0%	3.3%	
2025年比	89.1%	101.6%	118.5%	81.6%	124.0%	100.0%	76.5%	71.4%	83.3%	88.9%	65.0%	93.2%

絵画部門（応募数167、入選数67）

部門	賞	作品名	名前	居住地
絵画	一席　部門大賞（知事賞）	日づけのない記憶	髙萩　典子	神戸市中央区
絵画	二席　兵庫県立美術館賞	玄武り～な	島田　勝	豊岡市
絵画	三席　神戸新聞社賞	うつる	西浦　絵理	神戸市灘区
絵画	奨励賞　(公財)伊藤文化財団賞	これから	椿野　聖梨	朝来市
絵画	佳作	戦場の対話	小谷　孝子	宝塚市
絵画	佳作	「月の水」転換点のゆくえ	岩崎 ナギ	神戸市西区
絵画	佳作	ありがとう #MORSE360° 秋	望月　たか　(TakA)	西宮市
絵画	佳作	Pieces of a Story	水本　智子	神戸市垂水区
絵画	佳作	ぷかぷか・ぐるぐる	丸橋　重美	西宮市
絵画	入選	空と大地と家族と	澤田　浩二	加古川市
絵画	入選	グンネラ…あなたの大きな葉の下で	阿部　道子	姫路市
絵画	入選	旅する朧月2	山本　俊喜	神戸市垂水区
絵画	入選	ETERNITY	中川　理代	西宮市
絵画	入選	幼子の守り人と眠りの国へ	廣瀬 眞知子	姫路市
絵画	入選	繋ぐ	藤村　温子	姫路市
絵画	入選	月紅	寶山　和久	赤穂市
絵画	入選	126	河西　厚子	伊丹市
絵画	入選	春を待つ	池田　瑞子	神戸市灘区
絵画	入選	月	喜多　義将	西宮市
絵画	入選	牛窓の赤屋根	坪井　英樹	高砂市
絵画	入選	Forward （前へ）	田上　真志	尼崎市
絵画	入選	フウセンカズラ	石宮　千佐登	芦屋市
絵画	入選	春日和散歩に	金丸　英子	三木市
絵画	入選	憧 憬　- 彼方へ -	奥野　隆之	丹波市
絵画	入選	バレリーナ	田中　智子	三木市
絵画	入選	雨音だけ聞ゆ	伊丹　千尋	神戸市須磨区
絵画	入選	レクイエム	野渕　博	滋賀県大津市
絵画	入選	優美なる舞	關川寛子	神戸市垂水区
絵画	入選	たゆたい	福田　秀行	加東市
絵画	入選	解体	冨家　一哉	芦屋市
絵画	入選	片割れ	永井　隆太	姫路市
絵画	入選	ジョルノ	前髙 尊	姫路市
絵画	入選	木の香	戎居　華恋	小野市
絵画	入選	カンナ・サンシャイン	浅田　祐加	神戸市西区
絵画	入選	りんご	松尾　知莎	姫路市
絵画	入選	扉 NO.6	上敷領　勉	神戸市北区
絵画	入選	大樹	安達 明美	丹波市
絵画	入選	青き記憶の誕生	戸田　恵子	宝塚市
絵画	入選	樹影／気配のかたち	槇原　健一	西宮市
絵画	入選	還る場所	若林　いぶき	大阪府富田林市
絵画	入選	Paint It Black 第一楽章	島津　貴充	宝塚市
絵画	入選	silent memory -連弾-	イトウヤスコ	神戸市垂水区
絵画	入選	春日向	浅田　誠子	西宮市
絵画	入選	つながる世界へ	入潮　令子	赤穂市

部門	賞	作品名	名前	居住地
絵画	入選	邂逅	渡邉　良子	川西市
絵画	入選	上を見あげながら	田中 有作	西宮市
絵画	入選	影からの上昇	原口　久美	加古川市
絵画	入選	思い出	松下　絵摩	西宮市
絵画	入選	愛しきもの	はた　けいこ	揖保郡太子町
絵画	入選	脈動	堀　美佐	尼崎市
絵画	入選	Nature	朝井　颯志	大阪府大阪市
絵画	入選	朝顔	吉川　弥音	三木市
絵画	入選	雪	吉村　佳代	加東市
絵画	入選	13歳の記憶	梅﨑　秀夫	神戸市西区
絵画	入選	畏敬の念	長谷川　禎一	多可郡多可町
絵画	入選	風光るトアロード	清瀬　五郎	西宮市
絵画	入選	異邦人	金川　郁子	加古川市
絵画	入選	唯一瞬を生きる	三方　斌彦	加古川市
絵画	入選	もっと高く！	板谷　明美	加東市
絵画	入選	ハートランド　ひとり	風呂本　和彦	神戸市灘区
絵画	入選	熱風バイク（ベトナム）	宮本　範熙	宝塚市
絵画	入選	窓から見えるもの	佐古　千賀子	神戸市東灘区
絵画	入選	Ethnic memory	藤井　まゆみ	姫路市
絵画	入選	晩夏	瀬川　敏子	神戸市垂水区
絵画	入選	人らしきもの	戸田　新一郎	神戸市灘区
絵画	入選	私	澤田　善弘	姫路市
絵画	入選	プロジェクションマッピングをまとう館	藤岡　晴代	加古川市

彫刻・立体部門（応募数18、入選数7）

部門	賞	作品名	名前	居住地
彫刻・立体	特席　県展大賞　一席　部門大賞（知事賞）	map 遠くからの風	門脇　済美	神戸市垂水区
彫刻・立体	二席　兵庫県立美術館賞	タナダ	池田　賢司	南あわじ市
彫刻・立体	三席　神戸新聞社賞	皆、愛ある賢者(共生共栄)	乾　まち子	丹波市
彫刻・立体	奨励賞　(公財)伊藤文化財団賞	ｋｏшｋａ	仲本　宗馬	姫路市
彫刻・立体	佳作	YOSO MONO-HA	掛谷　朋子	芦屋市
彫刻・立体	入選	ソケットはたくさんある（改）	徳良 誠	西宮市
彫刻・立体	入選	知覚の揺籃	安田　正裕	西宮市

工芸部門（応募数28、入選数11）

部門	賞	作品名	名前	居住地
工芸	一席　部門大賞（知事賞）	錦 II	野津　果音	芦屋市
工芸	二席　兵庫県立美術館賞	Category	岡 志保	明石市
工芸	三席　神戸新聞社賞	タナダ　ツィンバロム	池田　賢司	南あわじ市
工芸	奨励賞　(公財)伊藤文化財団賞	my sweet plate Ⅰ～Ⅳ	清次　千晴	小野市
工芸	佳作	素・薄藍	西山　猛	芦屋市
工芸	佳作	池見草	谷　健三	姫路市
工芸	入選	秋麗	松尾　昭一郎	明石市
工芸	入選	妖	神保　節子	神戸市西区
工芸	入選	有線七宝・夢文飾筥	わた辺　きょうこ	神奈川県藤沢市
工芸	入選	うつろう	河田　祐子	三田市
工芸	入選	To continue	田中　紀子	姫路市

書部門（応募数45、入選数18）

部門	賞		作品名	名前	居住地
書	一席	部門大賞（知事賞）	白居易詩	前澤　蒼彩	姫路市
書	二席	兵庫県立美術館賞	李賀詩二首	鶴原　李翠	神戸市灘区
書	三席	神戸新聞社賞	李白詩	甲斐　游翠	姫路市
書	奨励賞	(公財)伊藤文化財団賞	程用楫詩	渡邊　志帆	神戸市垂水区
書	佳作		寧静寡營	藤田　紅霞	神戸市北区
書	佳作		望廬山	鈴木　蒼掬	神戸市西区
書	佳作		珠簾捲雨	戸出　紅桃	神戸市灘区
書	入選		黄州寒食詩	山口　松蔭	西宮市
書	入選		季秋祭禰	山崎　芳園	神戸市中央区
書	入選		藍仁詩	田中　光翎	尼崎市
書	入選		王漁洋詩	藤田　彩綺	神戸市北区
書	入選		韓翃詩	谷　詔子	姫路市
書	入選		施閏章詩	塚本　心子	洲本市
書	入選		蘇東坡詩	雲田　香娥	神戸市兵庫区
書	入選		劒號巨闕	俵田　奈菜	神戸市長田区
書	入選		朝霧	俵谷　百合子	淡路市
書	入選		祈・願・望	大前　恵里子	神戸市長田区
書	入選		漢詩	宮本　華逕	相生市

写真部門（応募数114、入選数46）　※奨励賞は、該当者なし

部門	賞	作品名	名前	居住地
写真	一席　部門大賞（知事賞）	琥珀の泡沫	信部　加織	豊岡市
写真	二席　兵庫県立美術館賞	ゆめかうつつか	智子	神戸市東灘区
写真	三席　神戸新聞社賞	纏う物	二星　幸弘	神戸市東灘区
写真	佳作	入　院　日　記　（ニエプス讃）	藤井　英雄	西宮市
写真	佳作	一球入魂	宇田川 洋二	三田市
写真	佳作	自画像	和田　國雄	神戸市灘区
写真	佳作	どこへ向かう	山添　真理子	西宮市
写真	佳作	夢を見、夢を追い、夢を護る。	土居　辰彦（ぱろ）	加古川市
写真	入選	寂光	仙﨑 幸子	神戸市中央区
写真	入選	静謐	波多野　博	三田市
写真	入選	王冠	金泉　萬楽	西宮市
写真	入選	一雨	中井　正和	神戸市長田区
写真	入選	Y氏のY字路2026	Chris 園田	西脇市
写真	入選	脈動	なかにし　宏明	伊丹市
写真	入選	雨後の彩り	神木　歌子	尼崎市
写真	入選	都人	庄野　洋子	神戸市須磨区
写真	入選	鉄人参上	吹田　武志	高砂市
写真	入選	雨、雨うれしいな	市嶋　久資	小野市
写真	入選	未知との遭遇	山田　幸男	神戸市垂水区
写真	入選	樹命	塚本　健之	宝塚市
写真	入選	Concerto	長坂　寿美子	神戸市兵庫区
写真	入選	すれ違う世界	清水　和義	三田市
写真	入選	荒涼	松野 良信	三木市
写真	入選	パリ街景	安東　幸典	尼崎市
写真	入選	Window	村上 よしみ	西脇市
写真	入選	二枚目	松本　真二	三田市
写真	入選	Beyond the future	上野　弘子	神戸市中央区
写真	入選	弾ける	木内　良之	神戸市中央区
写真	入選	メンテナンス	山木　芳久	神戸市北区
写真	入選	虚実街角	日夏　智子	大阪府豊中市
写真	入選	NIRAMU	石田　弘之	加東市
写真	入選	Early Morning in Seoul	大和　睦明	西宮市
写真	入選	紅の渦動	濱川　初子	三木市
写真	入選	無限！鏡の世界	恩庄　典子	神戸市東灘区
写真	入選	見てますよ…	Xavier MARTEL	三田市
写真	入選	Little Prelude	タサカトモナカ	神戸市長田区
写真	入選	働く人、食べる人	山田　高幹	西宮市
写真	入選	白銀追分	生駒　健一	西宮市
写真	入選	乱舞	中野　寛司	神戸市中央区
写真	入選	百代の過客	村上　元	神戸市中央区
写真	入選	情緒のゆらぎ	増田　茂	西宮市
写真	入選	気配	井上　淑子	神戸市東灘区
写真	入選	昇天	馬場　和正	三田市
写真	入選	謎の車	鈴木　節子	神戸市西区
写真	入選	廃墟を生きる	澤　勝弘	神戸市垂水区
写真	入選	時の肌	山口　政子	たつの市

デザイン部門（応募数27、入選数11）

部門	賞	作品名	名前	居住地
デザイン	一席　部門大賞（知事賞）	Fabric collaboration	藤井　まゆみ	姫路市
デザイン	二席　兵庫県立美術館賞	Doors　12	風呂本　和彦	神戸市灘区
デザイン	三席　神戸新聞社賞	なかよし	おぐらせつこ	神戸市東灘区
デザイン	奨励賞　(公財)伊藤文化財団賞	存在の情報量	西田　奈央	神戸市中央区
デザイン	佳作	五縁 －HYOGO GOKOKU－	土井　淳	神戸市垂水区
デザイン	佳作	Fuzzy Characters a To z	鈴木　大助	丹波市
デザイン	佳作	凝縮された午後	阿山　泰賢	神戸市東灘区
デザイン	入選	yodel bird show	中嶋　詩音	豊岡市
デザイン	入選	ありがとう∞	望月　たか　(TakA)	西宮市
デザイン	入選	こころ	はにおか ひさこ	神戸市北区
デザイン	入選	ウラジロ	上田　真理	姫路市

2026 県展　講評

※各部門審査員については敬称略

絵画部門

審査員＝砂押かほる、西田眞人、福元崇志

【総評】

今年に限らず、近年は抽象表現が多いように感じる。心地の良い空気感など自分の感じた印象を、無理なく素直に描いたものが印象的だった。日本画の出品も一定数あったが、墨を活かした作品があればよいと思った。受賞作を中心に、何を表現したいかを自身ではっきりと認識できている作品は強さがある。サイズの大きな作品に目が行きがちだが、必然性のあるものは小さい作品も意識的に選んだ。自分のやりたいことを既存の枠に当てはめるのではなく、今までにないカテゴリーを作り出すくらいの心構えのほうが、見ごたえある作品が生まれるだろう。

【一席　部門大賞（知事賞)】

的確な構成で、シックな色調だが美しい。塗り重ねが時間の集積や物語を連想させる、ポエジーのある作品である。イメージと物質との間、形のあるものとないものとの間など、2 項の中間領域を複数のレベルで達成し、絵画とは何かという問いを見る者に投げかけてくる。

【二席　兵庫県立美術館賞】

地層の積み重なりをポップに表現しており、エネルギーを感じさせる。デジタル画像的な印象だが、あえて手描きで制作することに意義がある。アップリケやパズルのピースのようでもあり、視線を奥に向かわせず、はねかえすような平面性が面白い。

【三席　神戸新聞社賞】

水を連想させるような抽象で、抒情性があって心地よい空気感が漂う。一見して色調が明るく美しい。見る距離によって印象が異なる点も面白く、物質感や画面の外への広がりを感じさせる作品である。

【奨励賞　（公財）伊藤文化財団賞】

青い色調で描いた影が、道を歩いているときの爽やかな気分を表現している。風景を的確にとらえた技術力ある作品である。写真をもとに描かれたものと思われるが、そこに込めた作者のコンセプトが明示されていれば、より魅力的だろう。

2026 県展　講評

※各部門審査員については敬称略

彫刻・立体部門

審査員＝池上司、はしもとみお、山村幸則

【総評】

今年も幅広い作品が集まったが、点数はやや寂しい。彫刻・立体はハードルが高そうだが、実は広い制作場所がなくても、さまざまな素材で自由に表現できる分野である。それだけに作り手の人物や世界が「もの」として出るのが、このジャンルの厳しさでもあり、面白さである。どこかで「楽」をしようとすると、作品が良くなくなってしまう。入賞作品は、いずれも作者の世界観が感じられる。

【一席　部門大賞（知事賞）】

紙の一枚一枚に繊細な描画が施され、その膨大な作業の時間やイメージの積み重ねによって、彫刻作品として自立している。風という目に見えないものを、そのまま形にするのではなく、想像させる造形も良い。自らの信じるもの、表現したい世界を、奇をてらわず自然に、誠実に積み上げている。

【二席　兵庫県立美術館賞】

パーツに分ければ作りやすい形態を、重力に負けず一体で仕上げた造形が見事。淡路の瓦の土の表情を活かし、棚田という自然の風景と、メカニックでシャープな世界が、まさしく一体化されている。色々な角度からしっかり見たくなる作品。

【三席　神戸新聞社賞】

多彩なモチーフが盛り込まれ、宝さがしのような楽しさがある。様々な技法を自在に組み合わせて、自分の見たいもの、好きなものが大事に詰め込まれている。彫刻を作る喜びや楽しさが感じられ、見ている方も自然と楽しく幸せになる。

【奨励賞　（公財）伊藤文化財団賞】

難しく考えずとも、特別な素材を使わずとも、大きく作らずとも、純粋に自分の魂が良いと思う形を、自分の手で作れば彫刻になるという、原点の魅力を感じさせる作品。ぜひ今後も既存の枠にとらわれず、制作を続けていただきたい。

2026 県展　講評

※各部門審査員については敬称略

工芸部門

審査員＝飯島礼子、笹井史恵、友定聖雄

【総評】

多彩な分野から作品が出品され、兵庫県の地域的な魅力が感じられる内容であった。年齢を問わず、新たな表現に挑戦する姿勢や、日頃の研鑽の成果がうかがえる作品が多く、全体として技術水準も高かった。また、若手の入選者が増えており、今後のさらなる発展が期待される。一方で、スケール感や空間性を意識した作品が少ない点は、今後の課題といえる。工芸の裾野を広げるためにも、多様なジャンルで制作に取り組む人々が、積極的に県展へ参加することを期待したい。

【一席　部門大賞（知事賞)】

滑らかな稜線とシャープなエッジが際立つ作品である。箔を用いた乾漆技法によって、数多くの工程を経て制作されていることがうかがえる。特に、下地づくりや研ぎの工程が細部に至るまで丁寧に行われており、それが仕上がりの美しさにつながっている。確かな技術に裏打ちされた表現力が存分に発揮され、品格のある佇まいと優れた造形性を兼ね備えている。

【二席　兵庫県立美術館賞】

パート・ド・ヴェールによる半透明なガラスの質感を生かし、植物を思わせる複雑な形状を巧みに表現した魅力的な作品である。複数のパーツの型取りや接合など、非常に複雑な工程を経て制作されているが、確かな技術によって全体のバランスが美しく保たれており、完成度の高さがうかがえる。

【三席　神戸新聞社賞】

素材は淡路瓦と思われる。土を熟知し、優れた技術を備えた作者の意図が随所に感じられる。層ごとに異なる質感や、建築を思わせる造形が興味深い。作者の心象風景を映し出すかのように、音やリズムが感じられ、情緒豊かな雰囲気が漂う。

【奨励賞　（公財）伊藤文化財団賞】

やわらかなフォルムは､作者が継続して取り組んできたテーマであろうか｡若々しさが印象に残る作品である。見ること、使うことの両面で想像力を掻き立てられるという、工芸の本質が感じられる良作である。

2026 県展　講評

※各部門審査員については敬称略

書部門

審査員＝新井龍雲、萱のり子、佐井麗雪

【総評】

昨年より出品数は減少したものの漢字作品は高い水準を維持しており、特に行草書については見応えがある。しかし、漢字、かな、前衛、篆刻といった多様なジャンルが揃ってこそ、書部門の鑑賞の楽しみが生まれる。その点、かなや前衛の出品が少ない現状は惜しまれる。かな作家を多く擁する兵庫県だからこそ、今後はこれらの積極的な出品を強く望みたい。漢字作品はレベルの高さに加え、書体のバリエーションがさらに広がることで、魅力はより一層深まるだろう。

【一席　部門大賞（知事賞)】

行書と草書を巧みに織り交ぜた、インパクトのある力作。文字の大小や潤渇の変化が一貫した流れを生み出し、美しい余白が際立っている。文字構造への深い理解が、作品の持つ魅力を存分に引き出している。

【二席　兵庫県立美術館賞】

気脈が一貫した、力強く密度の濃い作品である。古典の特徴をしっかりと吸収して自作に発揮しており、安心感がある。行間が統一され、心地よいリズム感と高い構成力が作品の完成度を押し上げている。

【三席　神戸新聞社賞】

流麗さを第一に置いた、自然体の作品。一貫した行の流れと潤渇の変化、そして多様な線質による強弱が美しい。一、二行目の詰まり感が今後の課題だが、全体としておだやかで優しい雰囲気を醸し出している。

【奨励賞　（公財）伊藤文化財団賞】

線が安定しており、派手さはないが力強い作品である。文字の構造を理解した堅実な筆運びがうかがえる。線に肥痩の変化を意識することが今後の課題だが、若手としての豊かな可能性を秘めており、今後のさらなる躍進が楽しみである。

2026 県展　講評

※各部門審査員については敬称略

写真部門

審査員＝兼古健悟、久保田秀典、鈴木崇

【総評】

昨年より充実していた。抽象的な作品も多く幅が広いと感じる一方、ストレートの作品や人物が映りこむストリートスナップ的なものが少なかったのは社会のありようと関係しているのだろう。デジタルデータのままでなく、作品を物体として仕上げることに意を尽くした作品に目がいったが、入念な仕上げにこだわるだけではない力を感じる作品もあった。

【一席　部門大賞（知事賞）】

一見して被写体が何か分からないのがよい。燃えているのだろうかなどと、想像の余地がある。道端の草花を映しているとしても、私たちの目の前にあるのは作者の脳内で処理されたものであり、ストレートにものを見るだけでない余韻・余白がその先に生れている。

【二席　兵庫県立美術館賞】

古典技法にとりくむこと自体は、デジタル万能の昨今のトレンドだが、プロセスの違う二つの技法を使っているのが面白い。しかもそれを１枚の布におさめており、古典的だとみせかける額をつけながら、布をそこからはみ出させるという発想が自由でよい。

【三席　神戸新聞社賞】

被写体が捉えられている檻（枠）とマット装の窓枠をうまく使って興味深い。作品全体の大きさに比して２枚の写真は小さめだが、かえってそれが囚われのる感じを強めている。２つの写真に撮られた動物が同じ１頭なのかといった謎もある。

【奨励賞　（公財）伊藤文化財団賞】

該当なし

2026県展　講評

※各部門審査員については敬称略

デザイン部門　　審査員＝行徳達之、後藤哲也、平井直子

【総評】

今年は、イラストレーションの力を感じさせる作品が多く見られた。昨年はアート寄りの作品が目立ったのに対し、今年はヴィジュアルデザインとしての視点から考えられた作品が増えた印象がある。一方で、昨年に引き続き、立体作品やプロダクトデザインの応募は少なく、今後さらに多様なジャンルの作品が増えることを期待したい。

アートかデザインかという区分はもとより、デザインそのものを定義することも難しい。だからこそ、自分自身がクライアントだったら何を求めるか、という視点も大切にしながら挑戦してほしい。また、より若い世代にも積極的に応募してもらいたい。完成形を提出する必要はなく、デザインとは、未来に向けた提案でもある。今後も意欲的な作品を期待したい。

【一席　部門大賞（知事賞)】

デザインの一種であるテキスタイルのコラージュを描いた作品であり、優れた構成力が感じられる。トルソーの大きさや向きに変化をつけることで視覚的な複雑さを生み出しながらも、それらをひとつの画面にまとめ上げるセンスが際立っている。また、トルソーを描くことで、そこに自身が衣服をまとった姿を想起させる。一方で、空虚な身体を思わせるトルソーの表現には、流行やデザインそのものに対する批評性もうかがえる。

【二席　兵庫県立美術館賞】

楽しいとも不安そうにもとれる子どもたちの表情が魅力的で、イラストレーションとして秀逸である。見る人自身の幼少期の記憶へとつながっていくような表現が興味深い。また、背景に描かれた扉や青空、雲の表現にも、作者独自の世界観が感じられる。

【三席　神戸新聞社賞】

動きのあるタペストリーのような作品であり、平面表現にとどまらず、プロダクトとしても考えられている点で完成度が高い。個々のイラストの細部にもこだわりが感じられる。重いテーマを扱いながらも、描写には良い意味でのゆるさがあり、観る側の想像力をかき立てる。モビールのように動く仕組みも、実際の使用シーンを想像すると興味深い。一方、立体作品であるからこそ、パーツの裏側にも描写があれば、あらゆる角度から楽しめる作品になったのではないか。

【奨励賞　（公財）伊藤文化財団賞】

実際に温度を測定しているかは定かではないが、サーモグラフィのイメージを用いて、アートとテクノロジーを組み合わせた点が興味深い。作者自身がテーマを設定して制作する県展において、デザインポスターの可能性を示す好例といえる。グラフィックの語源には、痕跡を残すという意味もあり、痕跡を可視化するような本作の表現とも響き合っている。個人的な思いを出発点としながらも、デザインとして理性的に構成し、表現へと昇華している点を評価したい。

2026 県展

特席　県展大賞　受賞作品



門脇 済美　《map 遠くからの風》

2026 県展

一席　部門大賞（知事賞）　受賞作品

【絵画部門】



髙萩典子《日づけのない記憶》

【彫刻・立体部門】



門脇 済美《map 遠くからの風》

【工芸部門】



野津果音《錦 II》

【書部門】



前澤蒼彩《白居易詩》

【写真部門】



信部加織《琥珀の泡沫》

【デザイン部門】



藤井まゆみ《Fabric collaboration》